

坪井遥司

MPコース1年生

TSUBOI YOJI

研究、スポーツ、趣味、特技……。学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなキラリと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。



学部には属さず、一人一人の目標に応じたカリキュラムを履修するマッチングプログラムコース（MPコース）。今年度は16人が入学した。「調味料を開発したい」「運動栄養学を学びたい」「新分野の研究で国際的に活躍したい」「スポーツと両立を」「触媒に興味がある」「音声認知の研究に取り組みたい」。それぞれの口から飛び出す明確な目標。「サラダボウルみたいでしょ」。彼ら自身がいうように16人はとても個性的だが、どこかまとまりがある。既存の枠にはまらないMPコースは彼らにとって、とても居心地のよい場所のようだ。

Matching Program Course

マッチングプログラムコース

学生一人一人の個性や能力を一層伸ばすことを目指して、既存のカリキュラムの枠組みを越えて学部・学科を横断的、主体的に履修プログラム（課題提案型履修プログラム）を作ることにより、各自の学習目的を達成するとともに明確なキャリアデザイン能力を持つ学生を育成するコース。所定の単位を修得した学生は、卒業認定に基づき「学士（学術）」の学位が授与される。



一歩一歩、夢に向かって歩み始めたMPコースの1年生。その中でもひととき個性光る坪井遥司さんは、日本スケート連盟のフィギュアスケート強化選手。「オリンピックに挑戦したい」と目を輝かせる坪井さんに、学業とスケートへの思いを聞いた。

フィギュアスケートを本格的に始めたのは、小学5年生のころ。全国的にも設備が良いといわれる岡山国際スケートリンク（岡山市北区）の隣にある小学校に通っていた。「日々、目にするスケートリンクに自然と興味を持つようになった。何かスポーツに打ち込みたいと思ったとき、選んだのがフィギュアだった」と振り返る。

中学時代では毎年、全国大会に出場。高校はスポーツ特化ではなく、公立進学校の県立岡山芳泉高へ進んだ。「スポーツだけでなく勉強も」と

考えたからだ。高校2年生の時には初めて国際舞台にも立った。

競技を続ける中で、抱いた将来の夢はフィギュアスケートのインストラクター。「ただ技術を教えるだけのインストラクターでは面白くない」。リハビリ療法を練習に取り入れていた福岡のあるコーチの姿に、多角

的な視点からアプローチできる指導者に憧れた。「大学では医学や教育学など、指導の役に立つ多様な学問を学びたい」。そんな時、高校の恩師に紹介されたのが、岡山大学MPコースだったという。既存の枠にとらわれず、自由に学べるMPコース。「自分の夢を叶えられるのは、ここしかないと思った」。

坪井さんにとってMPコースは「独立した個の集合体」という。「少人数制のため、横だけ

「五輪挑戦したい」

銀盤舞うMPの星

MPコースでの勉強と、帰宅後の練習で充実した毎日。日々を過ごす坪井さん。日々の努力が実を結ぶ日は近いだろう。

MPコースでの勉強と、帰宅後の練習で充実した毎日。日々を過ごす坪井さん。日々の努力が実を結ぶ日は近いだろう。



インタビュー
岡山大学学生広報スタッフ
経済学部経済学科4年
佐野 恭平